

## 認定特定非営利活動法人 日本雲南聯誼協会

【東京本部】〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町 21-13 1階

Tel: 03-5206-5260 Fax: 03-5206-5261

Email: yunnan@jyfa.org URL: http://www.jyfa.org/

【雲南支部】中国雲南省昆明市人民東路 289 号集大広場 2011 室

Tel: +86-871-63311468 Fax: +86-871-63320658

[@jyfa](http://www.facebook.com/NPOJYFA)

ブログ 雲南の郵便屋さん 検索

編集・発行人 初鹿野惠蔵

印刷協力 昭和情報プロセス(株) (株)技術評論社 / デザイン Hope Company

Japan Yunnan  
Friendship Association

## 彩雲の南

## 第65・66合併号

発行日 2018年(平成30年)10月1日

会報

25の小さな夢基金「ふれあいの旅」

夢と希望を胸に  
それぞれの道へ

第10期生92名

## 第10回感動の卒業式



▲ それぞれの民族衣装で卒業式に参列



6月28日～7月5日、今年度の「ふれあいの旅」が実施され、事務局を含めて10名が参加。前半は雲南省初開催の雲南日本映画祭開幕式と春蕾生卒業式に参加し、後半は2016年卒業の元春蕾生・魯菖卓瑪さんの故郷、チベット族自治州のシャンギリラを訪問。慌ただしくも充実した旅となりました。



会員の皆様から卒業の労いの言葉



## 「25の小さな夢基金」第10期生卒業式参列

7月1日、昆明市女子中学校から第10期生92名が笑顔と笑顔で立派って行きました。

式典で史雲波校長が「3年間よく頑張った。卒業後も人生の理想を持ち、読書を怠るな。読書する美しい女性になり」と卒業生を励まし、最後に「母校の門はいつに開かれていた。諸君の来訪をいつまでも歓迎する」と慈しみに満ちた言葉で締めくくりました。涙を浮かべる子、頬を緩める子、しみじみと抱きしめる子などさまざままで、何よりも胸を打たれる光景です。終了後は支援者と交流。卒業生は涙を浮かべて支援への感謝の言葉を繰り返していました。日本から駆けつけた里親の皆様それぞの卒業生の姿に感無量の様子でした。この卒業生全員の夢が実現出来るよう願い、みなさんは昆明女子中学校を後にしました。



▶ 里親から卒業のお祝い



厳しい3年間を乗り越えた証である卒業証書



前田右理さんと卓瑪さん ▲



立ち寄った市内の白堈のお堂では両掌を頭上で合わせてお経を唱え、旅の無事を祈願しました。

夕刻、市内中心部から3時間程北上した卓瑪さんが生まれ育った集落を訪問。実家は山を背にした、わざわざ開けた場所にあり、現在は彼女の祖父が難草に覆われた寒さとのことで住んでいるとのこと。かつては祖父母、伯親、兄、卓瑪さんの6人が暮らしていましたが、祖母が亡くなり、お母さんの病気のため両親と兄は収入を求めて市内に住居を借りて暮らしています。

両親に彼女の幼い頃の想い出をうかがったところ、お母さんは「踊ることが大好きな、素直で、可愛い女の子だった。病気の私を助けて家事をよく手伝ってくれる孝行娘」と目を細め、お父さんは「家計は苦しいが、娘は高校大学に行かせかけてやりたかった。娘には好きな道を歩ませてやり



たかったから」としみじみと語ってくれました。傍らで聞いていた卓瑪さんは大粒の涙を流していました。

今回のシャンギリラ訪問には、7月1日に春蕾を卒業したばかりの和宏業さんも同行。和さんは「であれば雲南省外の師範大学に進んで、国語の先生になりたい」と語ってくれました。別れの日、和さんは「夢基金の会員で高校卒業生することができました。支援者は経済的だけでなく、精神的にもとても大きな励ましをいたしました。感謝の気持ちでいっぱいです。ほんとに、ほんにありますかがどうございました」と涙を浮かべ、卓瑪さんは「春蕾時代には日本に行かせてもらいました。奨学金の支援もいただき、感謝



しても感謝しきれない恩をいまも持ち続けています」と胸元で合掌。卓瑪さんは「は今年3年生になる



ので、大学卒業後の進路に不安を覚ながらも、夏休みはバーレバイトと母親の看病をしながら新学期に備えるとのこと。

困難を乗り越えて、前へ、前へ、進もう努力する二人の笑顔は、ナガハの草原のように青々と輝いていました。

かくて2018年ふれあいの旅は、某氏の荷物が隔日出発になってしまったという苦いハプニングの思い出とともに、さまざまな記憶を残して終りました。滞在中、多くなご協力をいただいた雲南省、昆明市、シャンギリラ県の各政府関係機関の多くの方々に厚くお礼を申し上げます。

会員・元雲南支部特命部長 幸田栄一

# 25の小さな夢基金 2018雲南 ふれあいの旅 初めての中国、初めての雲南



◀ 初開彰顧問(左) 支援生徒の王丹丹さん(ハニ族)

話の充電用(バッテリー)を没収すれば届くといでの、スーツケースの鍵を渡して夕食会場へ向かいました。その後、いつも届く気にしていましたが、結局帰国の前日まで届きませんでした。

さらに困ったことに、下痢になってしましました。2日目 3日目とも朝食を壊し、春蓄卒業式ではお尻を押しながら参列。トイレを我慢して冷汗をかき、式典終了後、すぐにトイレに駆け込みました。そこでまた問題、どちらを向いたらいいのか分からず、適当に判断して済ませました。下痢止と胃腸薬はスーツケースに入っていたので、滝壺理事に分けさせていただき何とか回復しました。本当に助かりました。

スーツケースについては、協会の皆さんから空港職員にかけあつていただき、参加メンバーには心配のかけ通し。あわてて下着や防寒ウエアー、セレモニー用のYシャツを買い、滝在中は下着類を洗濯しながら何とか凌ぎました。出発前夜の雲南政府高官との晩さんにはスーツとネクタイを着用して出席できました。皆さんの助けと励ましが無かつたら雲南の旅は悲惨なものになってしまったことでしょう。

## 協会顧問 渕岡 彰

「旅は道連れ世は情け」という言葉が身に染みた旅でした。

此處で教訓。

- 1、バッテリーは絶対にスーツケースに入れないとこと
- 2、常備薬、処方薬等の日々必要なものは手荷物に入れておくこと
- 3、食べられない食べ物は少しづつ食べること

このふれあいの旅のキーワードは何と言っても笑顔です。春蓄生の素朴で穏れをしない

笑顔、その家族の逆境を感じさせない笑顔、山嶽の民族の貧しさを感じさせない笑顔。複雑な文明社会では失われた笑顔が、雲南にはありました。春蓄生とその家族の笑顔に触れ合うことができたことがこの旅の最大の喜びでした。

初鹿野理事長はじめ協会の平田さん、滝澤理事、林事務局長、雲南支部の李珂さんと一緒に旅した清水さん、米演さんの両長老、久織さん、沈さん、佐伯さん、それぞれ個性豊かで思いやりのあるメンバーに囲まれて、本当に楽しい旅ができました。心より御礼申し上げます。



## 「25の小さな夢基金」サポーター

### 米演和英さん

卒業式に参加して…



校はあるの?と聞くと、「日本語を学び、日本の大学に行きたい」と言っていました。将来、順調に成長してほしいものだと思います。

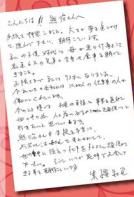
昆明、シアングリラは「きのこ」の大産地で、夜の宴会では必ず、沢山の種類のきのこの料理が出てきました。松茸も生で醤油のよなものをつけて食べましたが、バサバサしてあまりおいしくは思わなかったのです。キクラゲは当社では日本の国産のものを使用して大変おいしいのですが、昆明のキクラゲは形状も良く、色も真っ黒で非常に良かったです。栽培しているのかどうか聞いてみれば良かったのに、後悔しています。

春蓄卒業生で、大学に行っているチベット族の家庭も訪問しました。電気はついていましたが、本当に小さくて、広い部屋が一つという程度でした。ベッドはありましたが、服を着たまま寝るのか、掛け布団を見あせませんでした。トイレは外にあり、昔は日本もそうでしたが、朝晩寒いだろうと思いました。シャワー室のぞいてみましたが、使っている様子はなく、物置

きになっている状態でした。風呂がない、といふ事は我々には耐えられないと思った次第です。そういう生活でも携帯電話を持ち、日常的に使用していました。小さなタクターがあり、使用している模様でした。大都会での生活者と農村地帯の生活者で貧富差が大きいように見えました。

最後に、私は中国はハブルである。絶対に2～3年後にハブル崩壊がくると思った次第です。

当たるも八卦、当たらぬも八卦ですが……



米演様から  
支援生徒への  
お手紙

支援生徒から  
米演様への  
お手紙



米演さん(左)と支援生徒の熊雅さん(イ族)  
米演さん提供



している真っ最中。幼い頃からダンスが大好きな熊瑪さんも飛び入り参加。園児たちとつかの間の交流を楽しみました。

## 支援第14校目 「50の小学校」プロジェクト 日中何央谷僑愛小学校再訪問



「ふれあいの旅」6日目の7月3日。協会が14番目に建設支援をした小中甸鎮和平行政村熱水塘自然村にある中何央谷僑愛小学校(2007年6月開校)の現状を参加者全員で視察。2009年に始まった学校の統廃合により小学校としての機能は既に近隣の小学校へ移転し、建物は村の公的施設として大切に使われ、



## ご協力いただきました皆様に心より御礼申し上げます

ご協力・ボランティア(順不同、敬称略)

昆明市女子中学、昆明長水国際空港、デチェン・チベット族自治州州政府、デチェン・チベット族自治州統幹部、シャングリラ市政府、シャングリラ市政治協商弁公室、シャングリラ県小中甸鎮団結村委員会、魯葦卓瑪さんご家族、和宏業、蘆博河、譚忠文、平田栄一、徐芸、宋東昇

25の小さな夢基金「ふれあいの旅」/卒業生寄稿

# 親愛なる支援者の皆様へ

張麗(白族)  
2015年入学 第10期生

こんにちは! 光陰矢のごとし、高校の三年間は本当にあつたという間でした。

この三年間を振り返ると、早いようでもありました。早かったのは忘れられないことはばかりで、遅かったのはとても充実していたからです。他人からみれば、私はずっと学校にて退屈そうだったかもしれませんのが、本当はとても多彩でした。入学初日の先生の訓示、勉強で困った時の先生の細やかな指導やクラスメートとの活発な討論、病気やケガの時の先生や友達の思いやりなどと添い、支援者からのご支援など。すべてがありありと目に浮かびます。高校生活は本当に幸せで充実していました。高校は私の二番目の家であり、ここにいたことに誇りと感謝、温もりを感じました。先生は「本当によくやっています。あなたがいる安心できますよ」と言ってくれ、クラスメートは「班長さんありがとう、好きだよ」と感謝してくれました。皆さんから認められ、励まされ、思いやってもらえたことはこの上ない光栄です。私は校内のあらゆる場所を知っているので、草や木の呼吸まで感じられ、私の心臓は高校の心臓と共に鳴るほどです!できることなら時間をつけまえ、ゆっくり過ぎてほしい。

私の家庭の収入では都会で勉強するのはそもそも無理なことでした。でも心ある方のご支援のおかげで、高校で勉強することができました。本当にありがとうございました!両親が生まれてから出稼ぎに行き、子どものころは両親の思い出がありません。母が6歳下の弟を抱いて故郷に戻ってから、生活はさらに大変になりました。…ですから、皆様のご支援に、この上ない温もりを感じました。三年間のご支援のおかげで幸せに過ごせ、順調に勉強でき、感謝に堪えません!

この3年で、私たち春蕾生は、小さな木の苗から若くて健康的な樹木に成長しました。支援者の皆様への感謝から恩を感じる心を

知りました。私たちも優しくて恩を感じられる人になりたいです!将来も恩を感じる心を持ち続け、頑張って勉強したいです!成長を続け、今までいただいた思いやりに実際に行動で恩返しし、できる日がきたら、できるだけの力で社会にお返ししたいと思います!

最後にもう一度、支援者の皆様に心より感謝を申し上げ、幸せと健康をお祈りいたします。



▲大理州からやってきた張さん  
入学当時の写真

▶ 張麗さん直筆の感謝のお手紙

主な経歴略歴:  
2015年、中国雲南省昆明市女子中高2018届  
卒業式典にて  
颁发毕业证



卒業証書の授与では生徒代表に選ばれました▲

25の小さな夢基金

## 心と心が通う 1対1の支援

2006年に10名の春蕾生支援から始まった「25の小さな夢基金」。昆明市女子中学(日本の高等学校に相当)の春蕾クラスで学ぶ女子高生を支援する同プロジェクトでは昨年9月支援開始の新入生約100名を含め、これまで支援した春蕾生は750名を超えました。彼女たちを3年間、1対1で支援するサポーターも日本各地、幅広い年代で増え続けています。サポーターの皆さんはそれぞれの思いで支援し、春蕾生とお手紙を通じて交流しています。そんなサポーターの一人である吳淑敏さんの春蕾生と支援への思いを紹介します。



▶ 吳淑敏さん

「25の小さな夢基金」のサポーターになつたきっかけや春蕾生への思いなどを書いてほしいと協会から連絡をいたどき、あらためて時間の経つのが早いものだと実感しました。思えば、初めて支援をしていた生徒が卒業して一年になろうとしています。

恥ずかしながら、支援金以外は何もしてあげられていませんでした。むしろ長い間の夢を叶えてくれた協会に感謝の気持ちでいっぱいです。

みなさんは「希望工程」という中国青少年発展基金会在発起した貧困地域の子どもたちを支援することを目的としているプロジェクトをご紹介します。

存じでしょうか。実は留学生時代から興味を持ち、支援しようと考えていましたが、すでに日本にいる私にとっては、支援する子供との成績報告の手紙などを直接にやり取りすることがネットになり、したくななく断念しました。しかし、支援したい気持ちを忘れるはありませんでした。

それが実現しないまま日本で勉強、就職に就き結婚、出産、いつの間にか十何年も経つてしましました。

そんなある日、当時は面識のなかったFacebookの友だちの協会中青少年交流部長である董紅俊先生の「25の小さな夢基金」についての投稿を見て、コーヒー一杯分もない一日84円で子どもの就学を支援できるとの内容が目に入りました。迷いはなかった!すぐに協会のホームページを開き、連絡する方法を調べました。いうまでもなく、これが皆さんのご縁の運びだったのです。

なぜ当時は迷いはなかったのか。今思うと支援したい気持ちが強かったことと、何より面識のなかった董先生の人柄に疑いはなかったのです。その後で分かったのはやはり私の判断が間違っていたのかな?ということです。そう言ひながら、董先生を遙ざに直接、協会に連絡したのは実はただただそっと春蕾生を支援したいだけとの想いででした。その後、協会という

共通のキーワードでFacebookを超え、面識を持ち、今では家族ぐるみのお付き合いまでなりました。

また先生のお説いで協会の翻訳ボランティアサークル「百合の花」に参加させていただき、微力ながらお手伝いをしています。

積極的に協会のことを宣伝する先生の影響で、私は少しずつ口を聞くようになり、周りに紹介するようになりました。先生にはとてもとても及びませんが、うれしいことは一人でも、二人でも仲間が増え、支援の輪が広がったことです。そして、まさか今は会報に自分のことをしゃべるなんて今まで自分が考えられなかつたことです。この3年間、私も子どもたちと一緒に成長してたことかな?!そうしておきましょう(笑)。

支援をしていた生徒たちがそれぞれ進学でき、それぞれの夢に向かって頑張っていると聞き、嬉しかったです。これはすべて協会のおかげです。

これからもできる限りに支援をしていきたいと思っています。いろいろとご迷惑やお世話になりますが、よろしくお願いいたします。

「25の小さな夢基金」サポーター 吳淑敏

心と心がつながる  
教育支援  
「25の小さな夢基金」  
2018サポーター  
募集中



「女の子だから・・・」「貧しいから・・・」  
さまざまな理由で学業を続けることが困難な  
雲南省の女子高生を3年間、1対1で支援  
する「25の小さな夢基金」。

現在、新規サポーターを大募集しています。  
お志ある方のご支援をお待ちしております。

お問い合わせ・お申し込み ↓  
**東京本部事務局**  
(月~金、10~18時)

**TEL 03(5206)5260**  
**yunnan@jyfa.org**

# 日中平和友好条約締結40周年認定事業 雲南省紅河ハニ族イ族自治州歌舞団初来 文化中国七彩雲南 雲南省少数民族の舞踊と文化展

▲右から3人目中華人民共和国駐日本国大使館  
総領事 廖孔明様

## 文化中国七彩雲南を鑑賞して

協会法人会員・プランニューダンスマーケット代表 能見 広伸

先日ご招待いただいた「文化中国七彩雲南」を鑑賞して、舞踊を通した交流は異文化に触れる格好だと改めて感じました。

私も日本の民族舞踊を舞台で踊ってきて思うのですが、民族舞踊というものはその地域で踊られてきた素朴で単純な動きのものが多いです。しかし、今回の舞踊団の公演は、それぞれの少数民族の生活ぶり、若い男女の様子、地域の匂いを舞台上に漂わせつつ、見ていても楽しめるように構成され、衣装や小物に至るまで少数民族の特徴と美しさが表現されていましたように思います（舞踊家として個人的には、それぞれの民族による舞踊の動きの違いが分かる点に更に楽しめたと思います）。

ダンサーたちは基本を身につけた洗練された動きで、顔や指先の表情までも魅力的で、男性ダンサーのコミカルな表現も、この舞台上には欠かせない大切なエッセンスとなる一面で、女性との掛け合いを見て、国を超えて女性が強いのは同じなんだなと、笑い声を上げてしまいました。

一般的に日本人の中国に対するイメージは、お決まりの「赤」という感はあると思いますが、雲南少数民族の衣装の色使い、煌びやかさは目を見張るものがあると思うのは自分だけでしょうか。なぜあの山深く、自然たっぷりの生活中から、あのビビッドな色使いが生まれたのか、すごく興味があります。また、伝統的な発声を駆使した中国独特の表現、一流的歌手の歌唱方法に加え、近代的な表現を取り入れた歌手のステージは、新旧一体となり発展に向かう中国の象徴ではないかと、非常に興味深く心を揺さぶられました。民衆に根ざした文化、芸術は経済や政治よりも深く異文化同士を結び、実はこれこそが平和への一番の近道であるということを、実感させてくれたのが、このステージだったと、舞踊に携わる人間として感慨深く拝見したことをお伝えして、結びをいたしました。



主催：雲南省海外交流协会

共催：認定NPO法人日本雲南聯誼協會

後援：中華人民共和国駐日本国大使館文化部、(公社)日本友好協会、(公財)日本中友好会館、アジア通信社、全日本華僑華人連合会、JR総連、JR貨物貿易組

お祝いを寄せられた企業・団体の皆様：日中友好議員連盟幹事長 衆議院議員 近藤昭一郎、旭ロジスティック(株) 代表取締役社長 陳徵均様、アシアナ人材研究所 理事長 曹海石様、銀河株式会社

株式会社 リンガーハット 代表取締役会長 兼社長 米瀬 和英様

## 雲南省少数民族教育支援チャリティー公演

# 雲南省少数民族教育支援チャリティー公演

の壮麗な民族音楽の響きと色鮮やかな民族衣装の乱舞を披露し、両会場併せて1,400人を超える方々を魅了しました。

また、少数民族歌舞団の公演とともに、歌舞団が雲南から持参した少数民族の民族衣装や民芸品、美術品、トンバ文字の掛け軸などを展示し、少数民族の伝統文化を紹介しました。協会は、雲南省の自然や農村風景、少数民族の人々の生活を写した写真パネルとともに、協会が支援した小学校や昆明市女子中学春雷生などとの交流事業、日中大学生交流事業など、協会の事業を大判写真で展示了しました。

歌舞団の公演開始前、展示会場となったロビーに観客の方々が続々と訪れて混雑する中、民族衣装を問じて日本にしたの方々は異口同音に「こんな鮮やかな色どきからくるの？」との驚きや驚き、溜め息を漏らしていました。手工芸品の前では、少数民族独特の刺繡のきめ細やかな文様に見る人やトンバ文字の掛け軸を不思議そうに眺める方の別が途絶えることなく続きました。

写真パネルの前では各自の説明を頗るながら読む方や協会ボランティアに「雲南に行つたことがあるんですよ」と声をかけてくださったり、質問をしてくださる方が続出。中には「協

## 感動をありがとうございました

名古屋外国语大学・名城大学講師 李香善

今回の公演には本当に感動しました。展示されたいた色鮮やかな民族衣装や民芸品は、雲南地域の少数民族の風習や文化を理解するのに大変役立ちました。また、パネル展示を通じて、現地の子どもたちの就学実態や協会の活動等について改めて理解を深め、日本の支援者の皆さんの献身的な支援に深く感動しました。

当日の舞台は、まさに雲南の山から響いてくるかのような歌とメロディー、鈴を鳴らしながら雲南の山々を駆け抜けてくる感じの踊りで、私たち観客をすっかり虜にしてしまいました。私自身、たちまちゲーサントンジュさんのファンになりました。公演終了後にはサインまでいただきました。娘も綺麗なダンサーの皆さんにサインをいただき、大変喜んでお友達に見せたりしています。一緒に

行った日本人の友人も、皆さん声を揃えて「雲

南少数民族の文化に初めて触れ、とても感動した」と興奮し、絶賛していました。

舞台上の軽快な音楽と若者たちの明るい笑顔を見ながら、協会や日本の無名の支援者の皆さんのご尽力に思いをはせました。そして10歳の娘が日本のお友達に一生懸命、雲南の事を語っている姿を眺め、雲南少数民族地域にきっとより明るい未来があるに違いないと密かに思っている次第です。

今回のような交流が今後も引き続き行われるよう願いながら、私自身も雲南の子どもたちにもっと関心を寄せたいと思っています。



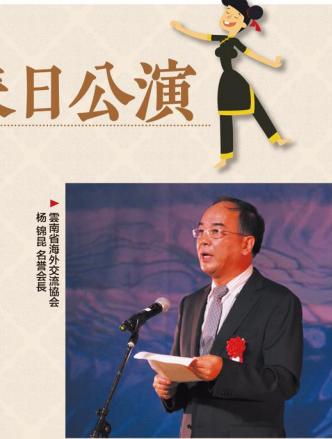
▲李香善さん(右から3人目)と娘さん(右から2人目)

ご協力・ボランティア(順不同、敬称略)

東京公演：宋愛平、山下英美、季瑞穎、李美玉、木下千尋、佐々木萌寧、加賀谷唯、藤原正夫、土田淳志、東郷浩嗣、安保尚子顧問、初藤野薫理事、中村有里子理事

名古屋公演：汪蓉、王麗英、夏晴、鄧芳華、加藤慧子、関延芬、管玉霞、琚群、小島千佳

趙文傑、陳建英、沈敏、丁敏、董晋梅、中井良子、中村恵子、任燕、哈曉琳、姪昭

▶ 雲南省青少年外交交流会  
团长・名譽会員 菊原

会の活動に胸を打たれました」とその場で会員登録をしてくださる方もありました。そして、なによりも嬉しいことに、予想をはるかに超える約7万6千円のご寄付をいただきました。みなさまの善意に厚くお礼を申し上げます。

今回の公演及び文化展では、東京・名古屋で50名を超える日中ボランティアの方々が、それぞれの個人的な人脈を活かして公演のチラシを配りたり、ポスターを貼ってもらうなど、事前のPR活動から公演当日の会場設営、観



▲文化展では協会の活動についてパネル展示を行い、多くの方に興味を示していただきました。



▲終演後、団員と関係者で舞台で記念写真



▲大活躍!名古屋会場の元気一杯ボランティアチーム  
客の案内、展示品の撤収まで、多大なご苦労ご協力をいただきました。ボランティアのみなさんの「熱い心」が「熱替」を吹き飛ばし、東京・名古屋ともに嬉しい一日となりました。お力添えをいただいたすべての方々に、あらためて感謝を申し上げます。

会員・元雲南支部特命支部長 平田栄一



会場を訪れた来場者は入り口の数々の珍しい少数民族衣装に興味津々

## ボランティアとして携わって

岐阜市立短期大学職員 大島美湖

▲大島美湖さん(左から3人目)と  
名古屋公演ボランティアの皆さん

今回の公演が名古屋でも行われることを知ったのは公演の二週間前でした。日本側の主催者である協会が、雲南少数民族の子どもを支援していることは知っていました。これまで25の小学校を建設して、延べ15,000名以上の子どもたちが快適に勉強できる環境を作ったほか、800名以上の少数民族の女子高生を支援し、その大半が大学に進学、それぞれの夢に向かって進んでいることにも関心を持っていました。

名古屋公演の準備は、協会の近藤鈴一名古屋支部長と董紅俊氏が青少年交流部を中心に行められました。私は董部長から第一回目の打ち合わせに誘われ、ボランティアとして協力することに決めました。

準備期間はたった二週間。記録的な酷暑の中、800枚のチケットをどう配布するか、ポスターをどこに貼るか、来賓や関係機関をどう招待するか、やることは山積みでした。まず、董部長は30名以上のボランティアの名簿を作り、役割分担を決めました。私は当日の受付責任者を任せられました。

いよいよ公演当日。効率よく受付ができるようにチケットをお持ちの方、そうでない方、ご来賓用に受付を準備しました。開演30分前から来場者の続々といらっしゃいましたが、しかし準備したおかげで、スムーズに受付を行うことができました。「たくさんのお客さんがいらっしゃるかな?」と心配していましたが、来場者数は700名以上に達したと聞き、本当にほっとしました。

今回のボランティアでできる限りの力を發揮。皆さんの共同作業で輝かしいイベントを成し遂げられたことは、今後さらなる公益活動に関わる自信につながりました。貴重な体験ありがとうございました。

## 夏の一夜を彩る思い出深い舞踊会

協会顧問 渕岡 彰

雲南を訪れた際、昆明のホテルで会食を終えて外に出ると、近くの広場から歌声が流れ、一群の踊る人たちが見えていました。夜8時でした。故郷を懐かしみ、残してきた父母兄弟を思い、一夜の楽しみを同郷の人と分かち合いました。日本では盆踊りのシーズン以外はあまり見かけない光景です。

私は民族レストランやチベット族の村を巡り、いろいろとこどろく声を聴き、踊りを観てきました。日本でも一時代前は、早苗舞や新嘗祭で豊穣を祈り、祖先を敬う歌や踊りました。人は族、人種・民族を問わず歌い踊ることが好きなのです。

今回の舞踊会を観て、特徴的だと思ったのは歌と踊りにストリーリー性があることです。棚田と彩雲に代表される自然へのオマージュ、豊穂を祈り、收穫を祝う踊りや歌であります。そして、祭りに踊らをときめかす若者の姿、青年と乙女の恋の駆け引きを表現するものでした。グーサントンジュさんのチベット族の楽しきな歌声や一族のねの花の踊りに、少年の唄、盆踊りの輪の中に好きな女子の姿を探した自分を思ひ浮かべ、わが故郷、後妻友の里山と少年時代の初恋に思いをはせました。

もう一つの見どころは華やかな民族衣装です。イ族、ハニ族、ミャオ族、タイ族、ワ族、それぞれの衣装の違いはよく分かりませんが、どれもこ

れも色彩豊かで丁寧な刺繡が施してありました。日本にも小袖に代表される着物という民族衣装があります。その民族の女性たちの日常生活における動作と姿勢から要求される機能性、そして結婚式や儀礼の際に現れる倅備禮、伝統を表するもの、それが民族衣装です。最近、ミャオ族の民族衣装が既製化していると聞きますが、ぜひ、これで同じように、紡ぐ、染め、織る手作りの伝統技術を残していただきたいと切望します。

李姉弟による一族の伝統音楽「海菜腔」のデュエットでは、澄んだ歌声に心を清らかにしました。また、歌詞の持つ雰囲気をうまく表現したフーシーさんの歌唱力は素晴らしいものでした。ただ、会場の音響のせいか高音部が聴きにくかったのが残念でした。いかつか機會があれば音響の良いホールで聴きたいものです。夏の一夜を彩る思い出深い舞踊会でした。

## 名古屋ボランティア慰労会

日中青少年交流部 董紅俊

「文化中国七彩雲南」雲南省少数民族の舞踊と文化展」の名古屋公演が8月4日、愛知県総合女性センター(通称 ウィルアイ)で行われ、約800名の観客が会場を埋め尽くしました。

愛知、岐阜、三重の中部三県から集まつた観客は、日本人、中国人を問わず素晴らしい歌と踊りを堪能しました。名古屋市内にある大学の英語講師、米国出身のボールさんも家族連れで鑑賞し「中國の民族舞踊を初めて見た。皆さんの演技も見事だし、衣装もすごくきれい」と感心していました。

このイベントの成功は、約30名のボランティアの皆さんとの献身的な協力なくしてあり得ませんでした。協会の近藤鈴一名古屋支部長は公演後、皆さんの力をねぎらうご四川料理店で慰労会を開きました。ボランティアの皆さんには近藤支部長を親しく「お父さん」や「スーパーボランティア」と呼んでいます。皆さんは協会の活動や歴史、雲南省の事情や少数民族について熱心に質問、近藤支部長はご自身の経験を踏まえて丁寧に答えていました。

近藤鈴一名古屋支部長(前列右から3人目)▶

名古屋ボランティアの  
団結力は抜群

顧慮、細谷きよら、吳鎮、裴悅微、平田栄一、寺内明子、理事、野村孝志理事、佐伯義博理事、瀧澤崇理事、佐、田野嘉子、謝琳、徐冬琪、徐銘、蘇鑫、宋歡歡、宋桂玲、周麗、李雨虹、李仕芳、劉彦君、近藤鈴一、董紅俊  
会社 代表取締役社長 黄孝勇様

連載

# こんなにちはCSR

—協会を支えてくださる協力企業からのメッセージ—

## 第21回○株式会社 村上製本所

早咲きの桜があつという間に盛りを過ぎた4月初旬の某日、協会の「25の小さな夢基金」を支援していただいている株式会社村上製本所の村上嘉夫社長を板橋区の工場にお訪ねしました。

### 会社概要 ■

設立：昭和28年12月26日

所在地：〒175-0081

東京都板橋区新河岸2丁目9-6

TEL03-5383-6511 FAX03-5383-6512

主な事業：書籍の製作

村上製本所は昭和28年に村上嘉夫社長の祖父によって、東京神田三崎町で揃業を開始しました。日本が戦後の混乱から脱出し、高度経済成長の時代を迎えるとする頃です。人々は「活字」を求め、単行本や雑誌が次々と出版され、神田界隈の印刷会社や製本会社は、夜中でも灯りが消えることはなかったと言われています。

昭和40年代にはコミックの時代を迎え、村上製本所は三崎町の工場が手狭になり、板橋区に新工場を建設して業務を拡大しました。村上社長は「うちで生産したIT関連の本が自宅にあって、それを読んで大学はその道へ進んだ」と当時の想い出を笑いながら語ってくれました。そして、平成7年に現在地に移転し、平成21年に村上社長が3代目社長とし

て経営を引き継ぎました。IT関連などの実用書やコミックの単行本、文庫本など、多様なジャンルの本を手がけ、最近では『弱虫ペダル』（既刊55巻：秋田書店）というコミック本が累計1700万部を超えるベストセラーになっていま

す。村上製本所が誕生して64年。この間に日本の出版業界は大きく様変わりしました。DTP印刷の普及とともにデジタル化が進み、製本分野でも環境に優しく、なお粘りがあって開きやすい糊の開発や工程の途中にモニターカメラが導入されるなど技術革新が進んでいます。また、オンドマンデ出版の導入により、既刊本の増刷を1冊から製造する時代になりました。同時に、近年は本離れ・活字離れに加えて、デジタルブックの出現でいかがわしい時代になりました。かつて1200社あった都内の製本会社は半数以下に減少し、從業者の高齢化、人手不足が業界全体の課題となっています。業界の将来についてかかうと、「出版の部数は減少しても、本そのものはなくなるない」と村上社長。さら



村上嘉夫社長

に「事業に浮き沈みはつきもの。培った信用と熟練の技能という資産を守りながら、継続することが大切」とおっしゃっていました。製本業は「本」を世に出すために欠かせない仕事です。「本」は社会に欠くことのできない文化です。

どんな時代は変わつて、「本」はなくならぬでしょう。

最後に、協会の「25の小さな夢基金」を支援してくださりになった契機をお尋ねすると、村上社長の父の意向によるところが大きかったようです。お父上の母の実家が愛媛県の伯方島（はかたじま）で、縁故疎開の経験から幼い島の生活は食べるのも事欠き、とても不便で厳しかったそうです。春芽生の存在を耳にされたとき、幼い頃の想い出が重なり心動かされたそうです。「社会に役立つことをしたい」とお気持ちはから、以来、親子2代にわたって数多くの春芽生を支援していただいています。

お話をかがって、村上社長の業界への姿勢も社会貢献の精神に裏打ちされているように感じました。



製本機で最も云つてかうのは「乱」。著子の事故で事前準備に手間をかけます。できあがくまで手作業にするよりもひどいことがあります。



※CSR=Corporate Social Responsibility（企業の社会的責任）：利益を追求するだけでなく、組織活動が社会へ与える影響に責任をもつこと

## 2017年度 新会員ご紹介 (入会順、敬称略)

安藤哲雄 潮岡彌 C&J株式会社 仲間未来 江口雄太  
鈴木良弘 平野雅之 鈴木哲雄 株式会社安慶 奥麗根  
本茂 則存 四川料理鶴鼎 芦名雪希 李峰 隆平幸夫  
毛林勝貴 姚繼霞 費婷婷 章永瑞 周玲娟 魏文娟 許  
雷雪 武文煜 学園芳 趙紅 紀烈森 伊藤隆 堀将嗣  
和泉日実子 小杉慧 翟啓龍 吉沢麗子 劉彦君 劉玉斌  
中田和世

ご入会いただきました皆さま、ありがとうございました。

## 新規会員募集中

## 協会活動を応援してくださる会員を募集しています！

### 1か月500円からできる教育支援

雲南少数民族の子どもたちに豊かな未来を！

協会の趣旨に賛同し、支援していただける個人、企業、団体を随時募集しています。

正会員	一口 6,000円 (500円/月)
賛助会員	一口12,000円 (1,000円/月)
法人会員	一口18,000円 (1,500円/月)

※法人会員は3口以上でお願いします

お申し込み  
協会公式HP  
(<http://www.jyfa.org>)

### → 支援に参加する → 会員になる

会員には会員証を発行し、会報誌「彩雲の南」を年4回（2月、5月、8月、11月）、お送りいたします。



※ 正会員と法人会員には総会における議決権があります。賛助会員は事業・活動に賛同し、援助していただくため議決権はありませんが、賛助会員は寄付金控除の対象となります。

※ 4月1日から3月31日までを1年度とします。

※ 年度途中でご入会の場合の初年度の会費は入会月から年度末（3月）まで月割で計算させていただきます。

## 協会ボランティア通信

連載 第⑩回

### 次世代のボランティアが育っています

顧暢さん



私は中国・蘇州から來た留学生の顧暢と申します。今年19歳で、立派な大人になれるよう頑張っております。

協会は私にとって第二の家族と言えます。2017年4月、夢を抱いて日本という幻の国に来て、親友の紹介で初野理事長と知り合いました。初めて会ったとき、「この人の顔に『優しい』と書いてある」というイメージを持ち、

実際にそうで、交流を深めれば深めるほど初野理事長の偉大な仕事を知り、それは雲南の子どもたちに勉強する機会を与えることでした。すなわち雲南の子どもたちのために学校を建てることです。それは実に尊敬すべき事で、自分のためではなく子どもたちの未来を考え、そして愛があるからこそこのような仕事ができます。そこで私はボランティアとして時に協会を手伝うことになりました。

ボランティアの仕事は主に子どもたちの教育支援を皆さんに紹介することです。協会の皆さんは親切で、いつも力を合わせて宣伝し、まるで自分そぞろ勉強を進めている子どもたちのようです。その一生懸命な姿を見て、とても感心しました。日本に来て間もなく一年が経ち、こ

イベントや翻訳、会報の発送など、協会活動を支えてくださるボランティアは全国各地、老若男女を問わず大勢います。近年では「ボランティア活動をしてみたい」「日本のNPO活動に興味がある」と、授業やアルバイトの合間にボランティアとして参加してくれる留学生も増えました。去年4月に来日し、横浜の日本語学校で学んでいる顧暢さんもそんな留学生の一人です。明るいキャラクターの顧さん、国際協力イベントの際は必ず手伝いに来てくれます。彼の日本語の感想文をご紹介します。

グローバルフェスティバルJAPAN(2017年9月)

の一年間、協会でボランティア活動をして、色々な人に出会い、毎日、充実した生活を楽しんでいます。私も雲南の子どもたちの輝かしい未来を期待して、頑張ります！

顧暢



東京都主催  
多文化フェス(2017年11月)





## 上海森茂診療所様からの健診ウェア約400着 シャンゲリラの中学校へ送りました

上海森茂診療所・森茂国際健診センターの三木秀隆総經理からご寄付いただいた健診ウェア上下約400着を7月11日、雲南支部のボランティアにも協力していらっしゃるシャンゲリラの第三中学に送付しました。三木総經理からは「着心地が良く、健診の受診者に大変、喜ばれました。ぜひ、雲南の子どもたちに使ってもらいたいです」というメッセージをいただきました。

### 親愛なる三木秀隆おじさま

こんにちは！  
先日、おじさまからのウェアを先生から受取った時、とても感動しました。私たちはこんなに素敵で、着心地のいいウェアをいただいて着ることができます、とても光栄です。

ウェアを受取った時、私が受け取ったのはただのウェアではなく、おじさまの期待と深い愛

去年、「25の小さな夢基金」の高校生交流事業で春蘭生として上海を訪れ、上海森茂診療所を見学しました。その際、三木総經理から「ここへ来てよかったです。安心したと言っていたけれど、実用的なウェアはプライズプレゼントになるでしょう。生徒たちは三木総經理に会ったことはありませんが、三木総經理の温かい気持ちを感じ取り、恩返しのできる人になつてほしいと思います。

今回、ウェアを送ったシャンゲリラ第三中学では、主にチベット族、ナシ族、リス族の生徒が寄宿生活を送っているそうです。雲南の山岳地帯で貧しい生活をしている少数民族の生徒たちにとって、実用的なウェアはプライズプレゼントになるでしょう。生徒たちは三木総經理に会ったことはありませんが、三木総經理の温かい気持ちを感じ取り、恩返しのできる人になつてほしいと思います。

雲南支部 ボランティア協力：申筠



たりしてはいませんか？でも安心して下さい。私たちは自分のことは自分でちゃんとできますので、あまり心配しないでください。

おじさま、お知り合いになれて本当に嬉しいです。これから長いお付き合いができるたら嬉しいです。

どうぞお身体にお気をつけてお過ごし下さい。  
シャンゲリラ第3中学 周慶瑩

## 江戸川区子ども未来館子どもアカデミー出前講座



江戸川区子ども未来館の夏休みイベント「子どもアカデミー 世界の国をくらべる♪トライバル！」が7月28日(土)に開催。協会スタッフと日本の高校生、中国人留学生のボランティ

アが講師として参加してきました。同じく講師側には南アフリカ大使館も参加しており、よりグローバルさが確立、にぎやかに世界を感じる半日になりました。

当日は台風の影響で天気が悪く、イベントには小学生約30名が参加し、少数民族の文化と歴史、簡単な中国語を紹介しました。隣国だけあって中国について知っている子どもは多かったものの、やはりまだ雲南省は知られておりませんでした。そこで子どもたちには雲南の色鮮やかな少数民族の衣装を着てもらしながら、話を聞いてもらったり、歌を歌いました。見た目だけではなく、普段の洋服とは別の質感なども全く違う民族衣装に子どもたちは興味津々。

## 協会日中青少年交流部長・董紅俊先生講演会

▼董紅俊日中青少年交流部長(左から3人目)



協会の日中青少年交流部長の董紅俊先生が6月22日、講師を務める愛知学院大学で「認定NPO法人日本雲南聯誼協会の活動を通じて見た日中民間協力について」と題した講演を行いました。董先生は写真やデータを使いながら、ユーモアを交えて一時間ほど講演。多くの教職員も聞き入っていました。参加者は講演後一時間近く、雲南省や中国の民族問題、日本雲南聯誼協会の活動などについて熱心に質問し、董先生はじめ、近藤鶴一名古屋支部長、協会ボランティアの蘇鑫さん(紅河ハニ族)、田原州出身)に丁寧に答えました。

最後に董先生の友人で、歌手として活躍する小島千佳さんが「小河滴水」を熱唱しました。雲南省大理生まれのこの歌は「東洋のセレナード」と呼ばれており、会場は大きな拍手で包まれました。

董先生は名古屋市立大学や愛知学院大学等で中国語を教える傍ら、中部日本華僑華人連合会副会長等を務め、コンサートなどイベントの司会でも活躍しています。

日本雲南聯誼協会名古屋支部

### アジア未来への人材育成プロジェクト

## 2018インターナショナルプログラムin雲南支部

協会では2014年から「アジア未来への人材育成プロジェクト」の一環として、東京本部と雲南支部でインターンをacieを受け入れており、これまでに110人を派遣するが参加しました。今夏は、雲南大学漢池学院日語科2年生の董施さんが雲南支部で1ヶ月間、「25の小さな夢基金」のサポートと生徒の手紙を翻訳したり、協会プロジェクトの資料を作ったりするなど、教室とは違う実践的な日本語を学びました。

### インターナショナルに参加して

……………雲南大学漢池学院日語科2年 董施

会で実習できて、心からうれしいです。それに、協会の方さんはとてもやさしくて親切です。大変わかりました。

今回のインターナショナルを通じて、自分の弱みがわかりました。特に会話能力です。日本人の前ではいつも緊張して、何をどう言えばいいのか困っています。そして、自分が伝えたいことをどのように表現すればいいのか、よく悩みました。日本語はまだ下手だとわかりましたが、将来、日本語をもう少し上手にしたいと決心しました。中日双方のために頑張りたいです。

私は今後も協会のボランティア活動を続けたいです。協会には学校では学べないことが本当に多いです。これからも頑張ります。



## 新理事・新顧問ご紹介



●新顧問  
 Mizoguchi Keiichi 新顧問

平成30年度の第1回理事会で、新たに2名の顧問就任が承認されました。法人会員大月カントリークラブ前社長の濱岡彰さんは、チャリティーゴルフコンペにご協力いただいたほか、「25の小さな夢基金」サポーターでもあります。シナジープラスグループCEOの三宅裕之さんは会社ぐるみ、家族ぐるみで協会活動を応援していただいでいます。

また、第18回定期総会で野村孝志顧問、佐伯義博顧問、森正一郎顧問の3名が初鹿野惠蘭理事長より新理事に推薦され、承認されました。



三宅裕之 新顧問

雲南、彩雲の國。美しい雲の向こうの南の国。なんと浪漫に充ちた呼び名で、漢中に住む漢族にとっては桃源郷のような憧れの地であったことでしょう。昨年は直接的に社会貢献できる仕事がしたいと考えており、ようやく辿り着いた人の秋。こんな長閑で豊かな常春の大地に住む人々と闇闇に持てる力を大変幸せなどと心い、素晴らしい舞台を演すべく尽くしますので、よろしくお願ひ申し上げます。

協会会員株式会社大月カントリークラブ前社長 濱岡彰



●新理事  
 Nohara Keiji 新理事



佐伯義博 新理事  
 Saito Masahiro 新理事

雲南省に住む25の少数民族の子供たちの教育環境は恵まれていないエリアがあります。毎年、60万人以上の人口増加が続いている雲南省において教育支援は現地から求められています。協会を通じて子供たちの教育支援に取り組んでいます。

元ウス食肉(中国)投資社社長 野村孝志

6月2日の総会にて新理事に就任いたしました。甚だ微力ですが協会の活動理念に基づき、少しでもお役に立てるよう尽力する所存です。皆様には今後とも一層の指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

佐伯義博

この度理事に任命いただき、改めて微力ながら新たな視点で協会活動の推進に尽力して参りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

共同物産株式会社 物流加工本部取締役本部長 森正一郎

イベント  
報告

西日本最大級! 世界につながる国際協力のお祭り  
第25回ワン・ワールド・フェスティバル出展

国際協力115団体出展 2日間で25,000名来場

西日本最大級の国際協力・交流のお祭りであるワン・ワールド・フェスティバルが、2月3日㈯と4日㈰の二日間、大阪市内で開催されました。協会は4回目。ブースでブームアール茶を振舞いつつ協会の活動をご紹介するという方式もすっかり板についてきました。「中国を支援しているんだ」と嬉しいような表情の中国人留学生、「雲南、行きました、懐かしい」と目を輝かせてパネルを見入られる方、「これはどういう支援ですか?」と興味を持って尋ねられる方と、様々な方がいらっしゃいましたが、特に大学生の皆さんのがスティーヴーへ興味を示してくださったのが印象的でした。今回初めてボランティアに加わってくれた方からも終了後、「来年ぜひ参加させてください」と嬉しいメールをもらいました。繋がりを感じた2日間でした。

ボランティアリーダー・会員 平松宏子



ボランティア協力（原不同、敬称略）：田畠真知子、丁由爾、小寺孝子、近藤聡、大塚美央、平松康弘、平松宏子

## さいたま市国際ふれあいフェア2018 大宮支部出展

「さいたま市国際友好フェア」が5月3日

日、4日に行われ、ボランティアの皆さんのおかげで無事終了することができました。初日、朝はあいにくの雨模様でしたが、昼頃から蒸し暑くなり、2日目はお天氣に恵まれました。

今年も民族衣装の着試は大人気でした。初日は大人が多かったのですが、2日目は子どもが多く、試着待ちの方ができました。雲南や協会のことを熱心に尋ねる方も多く見られました。

「民族衣装の着試が楽しかった」「少数民族の衣装はとてもきれい!」という声を聞き、疲れが吹き飛びました。民族衣装を着た子どもたちが会場を歩いるのを見て、国際友好フェアらしいイベントになってよかったです



ボランティア協力（原不同、敬称略）：  
市立由美子、川口邦夫、高橋福子、大泉國雄、佐藤正典、鳥羽清弘、横山善、高畠、角田果穂、松本重、松本裕子、松本ユバ、佐々木英介、服部惠美子、寺内明子

大宮支部支部長 寺内明子

## 25の少数民族の生活 哈尼族（ハニ族）



## 平成29年度 第4回理事会 及び役員・顧問会 開催報告

平成29年度第4回理事会及び役員・顧問会が下記の通り行われました。

日 時：

平成30年2月23日㈮

理事会 15:30～17:00

役員・顧問会 17:00～18:00

場 所：

株式会社技術評論社5階 会議室

【議案】協会設立20周年記念事業（継続審議）、平成30年度イベント・プロジェクト、役員選任など、全て原案通り承認されました。

## 平成30年度 第1回理事会 及び役員・顧問会 開催報告

平成30年度第1回理事会及び役員・顧問会が下記の通り行われました。

日 時：平成30年5月18日㈮

理事会 15:30～17:00

役員・顧問会 17:00～18:00

場 所：株式会社技術評論社3階 会議室

【議案】協会設立20周年記念事業（継続審議）、新役員・顧問会選任（継続審議）、平成29年度会計報告、平成30年度収支予算案・イベント・プロジェクト全て原案通り承認されました。

## 定期総会及び懇親会 開催報告

第18回定期総会が下記の通り行われました。

日 時：平成30年6月2日㈰ 10:00～12:00

場所：株式会社技術評論社5階 会議室

議長：初田野忠良理事長

司会進行：瀧澤崇理事

議決権を有する会員数 278名

出席会員数 155名

（うち委任状出席107名、書面議決25名）

議案について審議し、原案通り承認されました。総会後の懇親会では、普段なかなか会えない会員の皆さんが雲南のことや協会活動について思い思いに語り合い、懇親を深めました。

おはよう

## 2018 チャリティー忘年会

日本と雲南少数民族友好のタペ

### 参加申込受付中

毎年100名以上が参加するチャリティー忘年会を今も開催します。映像による活動報告ほか、雲南少数民族の踊り、おもしろ抽選会などが行われます。雲南や少数民族に興味のある方、ボランティア活動に興味のある方、どなたでも参加いただけます。

日 時：2018年12月15日㈯ 17:00～19:00

場所：ビヤステーション恵比寿  
(東京都渋谷区恵比寿 恵比寿ガーデンプレイス内JR恵比寿駅東口徒歩5分)

会費：8,000円(予定)

会費のうち1,000円を雲南少数民族教育支援活動へのご寄附とさせていただきます。

[お問い合わせ]

日本雲南聯誼協会東京本部事務局

Tel. 03-5206-5260 (平日10~18時)

E-mail: yunnan@jyfa.org

ご当地、お友達にお説明の上、お気軽にご参加ください。皆さんの参加を心よりお待ちしています！

### さいたま市国際ふれあいフェア 大宮支部出展

日 時：10月7日(日)11:00～16:00

場所：浦和駅東口駅前市民広場

大宮支部ブース：13番

\*荒天時は10月8日(月・祝)に順延

### あげおワールドフェア 大宮支部出展

日 時：10月14日(日)10:00～16:00

場所：上尾市文化センター  
大宮支部は展示+4階で展示、1階ロビーで行います

### 2018年度日中学院 文化祭出展

日 時：10月27日(土)11:00～16:30

場所：日中学院(日中友好会館)

2階201教室で展示及びチャリティーバザー

### 平成30年度 第3回 理事会及び役員・顧問会

日 時：11月9日(金)

理事会 15:30～、役員・顧問会 17:00～

場所：株式会社技術評論社内会議室

### 第39回

#### 八王子いちょう祭り

日 時：11月17日㈯、18日㈰

協会出展場所：並木町郵便局横

(東京都八王子市)

### 第18回

#### チャリティー忘年会

日 時：12月15日㈯

場所：ビヤステーション恵比寿(東京都渋谷区)

### 「25の小さな夢基金」

#### 第6回日雲高校生国際交流会

日 時：2019年3月8日(金) 予定

場所：上海日本人学校高等部

### 編集後記

今年は明治維新から150年、現在の佐賀県、肥前鍋島藩には大量貿易などを輩出した「弘道館」という学校がありました。落成すると家禄の8割を没収され、藩の役職にも就けないという罰則があり、生徒たちは必死で勉強したようです。「25の小さな夢基金」で支援する春雷生にも、支援者や家族の希望を託されて学ぶ厳しさを感じています。様々な地域格差を実感する春雷生のなかから、県や地域のリーダーとなる人材が出来ることを願っています。

(編集長・木本一郎)